

(社)福岡県助産師会 ～つながるいのち ひと 組織～

ニュースレター

2011年 1月

No. 45

- 目次 1 会長挨拶「平成 23 年は飛躍の年」 2 特別寄稿「民話は幼な子の心を育てる母乳です」
3 3部会抱負 4 母子保健交流会報告 4 トピックス「ネパール助産師との交流から学んだこと」
6 トピックス「助産師教育カリキュラムの変更」



新年のご挨拶

平成 23 年は飛躍の年

社団法人福岡県助産師会

会長 平田 伸子

新年明けましておめでとうございます。

昨年は、会員の皆様にはひとからならぬご支援ご協力を賜りましたことに心よりお礼申し上げます。アクロスでの総会開催以降、各部会活動、各委員会活動はめまぐるしくも円滑に事業計画が遂行され、充実した活動であったことを実感いたしております。また、昨年は観測史上最も暑い夏だったとのことでしたが、7月から9月にかけての子ども虐待予防シンポジウムでは、各地区の皆様にはご尽力を賜り改めて感謝申し上げます。平成 22 年は厳しい中でも色々な動きをして、多くの方々の智恵をいただきました。

会長 2 期目の新年を迎え、今年も「つながるいのち、ひと、組織」を掲げ、社会の評価が会員個人はもとより、助産師会組織としてのよりよい評価に、そして助産師職の発展につながるような活動にしていきたいと思っています。そのためにも、時代ニーズのキーワードを見据え、本年も色々な工夫やアイデアを実践していく年にしたいものです。これからの 10 年そして 20 年、当会の未来像を描き進んでいくために、あらためて中長期目標として見える形にしておく必要があると考えています。さらに、この一年は、会員の皆様の参画のもと、事業計画を通じて組織活動の中で協働や連携のあり方、仕掛けづくりや仕組み、合意形成や調整の新しい段階に押し進められるものと確信しています。

課題山積の本会にとりましては、いろいろの議論、対応が求められることになるものと思われます。やるべきことは山ほどありますが、会活動も自分たちのやりたいことを企画していくだけではなく、目標に添って整合性のある活動として、着実にひとつずつ形にして飛躍の年にしていきたいと思ひます。

保健師助産師看護師法指定規則の改正に伴い、平成 24 年度からは助産師教育の方向性もさらに多様となり、育つ人材にも大きな違いが生じてくることになるのではないかと期待と不安が混在しています。皆様方の中には助産学生の実習指導に直接的、間接的に携わっておられる方も多いことと存じます。学生への実習指導は責務でもあります。私たち会員もかつては学生の時代があり、多くの先輩助産師から指導を受けた日々があります。多忙ではありますが、臨地実習指導は責務として受け止め、後輩育成にも惜しみなく協力していきたいものです。

本年も全力を尽くし会の運営に邁進してまいりますので、どうぞご支援くださいますようよろしくお願い申し上げます。

皆様方の新しい年が、ご健康で幸多き一年でありますよう心より祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。

特別寄稿

民話は幼な子の心を育てる「母乳」です

児童文学作家 さねとう あきら

わたしが「創作民話」を書き始めてから、かれこれ40年になります。1970年代の初め、松谷みよ子さんや斉藤隆介さんらによって、戦後何回目かの「民話ブーム」が盛り上がり、民話の本が続々と出版されていました。ところが、そうした賑わいも10年あまりで消え失せ、わたし自身もこの30年間、「創作民話」を発表するチャンスに恵まれなくなりました。

かつては、寝物語に聞かせてもらう昔話が、幼な子の心を育てました。何代にもわたって練り上げられた物語展開の面白さに導かれ、日常をはるかに超えた想像世界で遊ぶことによって、人と人、人と自然との交わりを学び、社会に巣立つ日に備えたのです。まこと昔話（民話）こそ、幼い子らの「人生入門」でした。

世の中が「核家族化」するにつれ、子どもらの周辺から昔話を語ってくれたお祖父さんお祖母さんも失せ、そうした空白を埋める意味もあって、民話絵本をお母さんが語って聞かせるスタイルに変換して行きました。それが「民話ブーム」の正体でした。

やがてテレビやゲームが充実して、子どもたちの関心をかきたてるようになると、親はハイハイも出来ない子をテレビの前に放置、長ずれば安易にゲーム器を与えてバーチャルな世界に遊ばせ、機器に任せた手抜き育児が当たり前になりました。最近頻発する「幼児虐待」や「思春期の親殺し」の類は、そうした育ち方に要因があるのではないかと、心のミネラル不足が深刻なのです。

「お話期」と呼ばれている3歳から5歳までの時期に、浴びるほどにお話（民話）を語り聞かせてこそ、幼な子の心もスクスク成長するのです。とくに民話は、先祖が残した含蓄のある人生の知恵を、母親の息づかいや肌の温もりをとおして伝えて行く、とても厳粛な瞬間のように思えます。わたしの偏見もあるかも知れませんが、テレビやゲームが添加物のまじったスナック菓子とすれば、民話は母乳のようにミネラルたっぷりの「自然食」といえましょう。

更に、幼な子に乳房を含ませた瞬間に母性愛もわき上がるように、お話を聞かせてあげることで生じる心の交流が、母を母として成長させる「心の糧」となるのではないのでしょうか。母と子が互いに高め合う、至福の瞬間をむざむざ放棄するのは、もったいないことです。授乳期が限られているように、「お話期」も母子の間にほんの一瞬しか訪れない、かけがえのない時間帯なのですから。

助産師の皆さんが立ち会っておられる「出産」の瞬間は、われわれ人類が何千年、何万年も受け継いできた、荘厳な命のリレーの瞬間でしょうが、そうした遙かな時代から蓄えられてきた先祖の知恵を、「民話」の形で受け継いでもらおうと、わたしたち民話作家も微力を尽くしてきました。それだけに、とにかく「民話」がなおざりにされる、今の子育てに心配が絶えないのです。

先生のご紹介

東京都出身。埼玉県狭山市在住。1972年に『地べったこさま』で日本児童文学者協会新人賞・野間児童文芸推奨作品賞、1979年に『ジャンボココの伝記』で小学館文学賞、1986年に『東京石器人戦争』で産経児童出版文化賞を受賞。『なまけんぼの神さま』、『おこんじょうり』、『かっぱのめだま』、『神がくしの八月』、『ゆきこんこん物語』などの創作多数。



三部会抱負

助産所部会

助産所部会長 寺田 恵子

明けましておめでとうございます。皆さま、良いお年をお迎えの事と思います。

昨年・一昨年と妊婦健診公費券の取り扱いを機に助産所部会員が一丸となって対応することができました。今年はその団結を基に、周産期ネットワークに参加できるような土台作りをしたいと思っております。

現在、福岡県助産師会では、お産を取り扱う助産院が14か所あり、全国的にもアクティブに活動している状況です。しかし、県内の周産期ネットワークには未だ組み込まれていません。開業助産師の活動に期待を寄せられているにも関わらず、バックアップ医療機関は各自の努力に任されている状況です。他県の状況から見ると、周産期ネットワークに組み込まれていない県の方が少ない現状であると耳にしています。そこで今年こそは、他県に倣い、周産期ネットワークに入れる努力をしたいと思っております。その足掛かりとして、まずは、今までの搬送状況の事例分析を行い、その状況を土台として行政や医師会に働きかけていきたいと思っております。早速年明けには、助産所部会内で、救命の専門医をお招きし過去の事例分析を行い、今後の方向性を打ち出す予定です。

福岡県助産師会の諸姉様方も、助産所部会の活動を温かく見守って下さることを願っております。

保健指導部会

保健指導部会長 菱川 和江

平成23年うさぎ年を迎えます。指導部会も干支にならって**びよんびよん**と各方面で助産師活動に勤しみたいものです。今期最後の集会でも、「国家資格を持った助産師として確かな知識と技に自信を持って対処していただきたい」と、通達がありました。時には会員の皆様がたいろいろな情報交換を行い、スキルアップを図りたいと思っております。

旧年中のご協力に感謝するとともに、尚一層のご活躍を祈念いたします。

勤務助産師部会

勤務助産師部会長 伊藤 香織

新年明けましておめでとうございます。どんな年になるだろうと胸をわくわくさせ新年を迎えられておられる事でしょう。

勤務助産師会は、福岡県助産師部会1の人数を誇りますが、なかなか活動できていないのが現状です。新しい年ウサギ年に勤務助産師部会も盛り上げられるよう、上を目指しみんなで協力してホップ・ステップ・ジャンプしましょう！！

皆さんにとって素敵な1年になりますように。

母子保健交流会報告

“母子保健情報交換会を行いました”

福岡県助産師会副会長 松原 まなみ

11月12日（金曜日）、博多区中洲にあるSLOW+K(スロウ プラス ケイ)にて母子保健情報交換会を開催した。

母子保健情報交換会は平成20年度からはじめ、今年で3回目となる。それまでは助産師会館にお客様をお招きして行っていた新年の交流会を、関連各位が参加しやすいよう秋の開催に変更した。母子保健に関する情報交換を行いながら交流を図ることで、福岡県助産師会への理解を深め、関連諸機関と連携・協働体制のもとに助産師会活動が円滑にすすめることを目的としたこの会には、県行政、福岡県看護協会、福岡県医師会、福岡県家族計画協会会長等をお招きしている。今年は福岡県保健指導係長、福岡県医師会産婦人科医会長、福岡県看護協会助産師職能委員長らの出席があり、本会のスローガンである“つながる組織”という目的のもとに本会役員・理事との交流を深めた。

交流会の冒頭では「福岡県家族計画協会の設立と変遷」について、協会長である長野作郎先生からミニレクチャーをしていただいた。昭和32年、福岡県衛生部公衆保健課母子係内に事務局を置き、福岡県における家族計画の普及と実践母体として設立された福岡県家族計画協会は、福岡県助産師会会長が副会長を勤めることになっている。時代が変わり、家族計画協会の存在意義、果たすべき役割を考え直すべき時に来ている今、いかに会を継続し、時代にあった形に編成しなおしていくかが課題であり、そのためには行政のバックアップも必要である。福岡県の人工妊娠中絶は全国でもワーストに位置する等の現状に鑑み、県健康増進課の協力を得ながら会を存続する方向で体制作りをしなおすことを検討中であり、その意味からも行政、産婦人科医会代表が同席する情報交換会で交流できたことは有意義であった。

妊婦健診公費券、院内助産の推進、虐待予防セミナー等、助産師会事業への協力、など、行政や医師会ほか関連団体との協働は本会の重要課題であり、母子保健情報交換会を含めた交流の機会を活用し、今後関係性を深めていくことがのぞまれる。

“12月は虐待防止月間”

理事会メンバーが薬院駅前で虐待防止街頭キャンペーンを行いました



トピックス1

ネパールの助産師との交流から学んだこと

しぶや助産院院長 澁谷 貴子

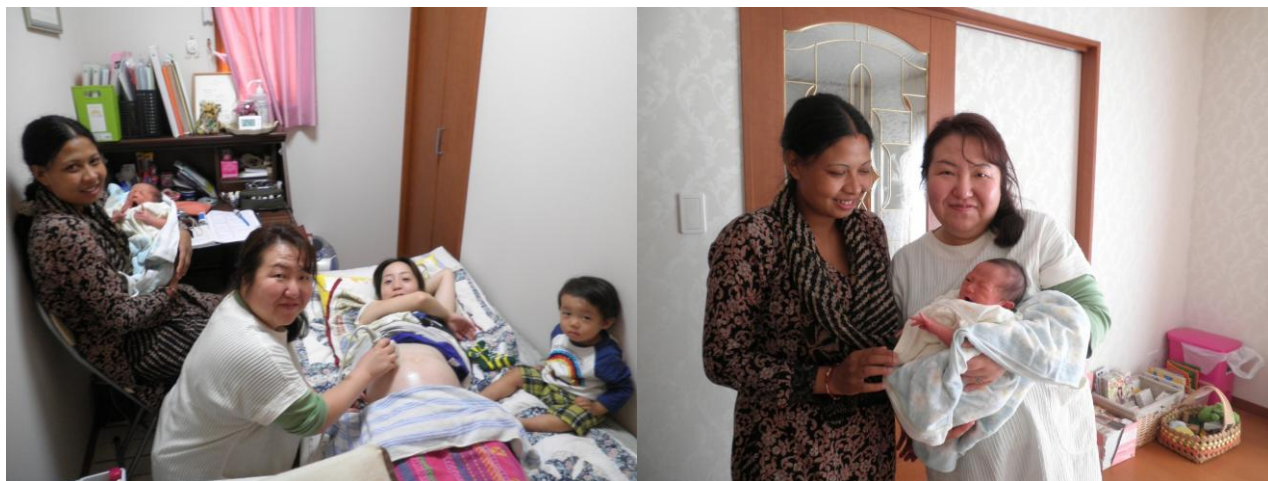
平成22年9月29日～10月13日までネパールの助産師ウルミラ・ライさんがしぶや助産院にてホームステイをすることになった。日本の助産師の技術を学びながら国際交流をするという目的であった。ウルミラさんは、1981年に岩村昇医師によって設立された財団法人PHD協会「Peace, Health&Development（平和と健康を担う人づくり）」の研修生で、1年間日本の各地で、母子保健医療や助産学そして有機農法も研修することになっていた。

ここでは、彼女と過ごした2週間で私が知り得たネパールの助産師の仕事と妊婦の生活を紹介したい。

まず、私が感動したことは、彼女自身の瞳の輝きだった。その瞳の煌めきの中に汚れのない女性としての美しさと芯の強さを感じた。ウルミラさんの診療所は、首都カトマンズから車で3時間かかる所にあり、妊婦は周辺の村から徒歩で片道6時間もかかり、妊婦健診に通ってくるそうだ。診療所に医師は不在であり、超音波や分娩監視装置等の医療機器はなく、助産師の責任は重い。しかし、医師の巡回は1週間に1度あり、カトマンズの病院の医師は助産師を信頼しており、絶対に協力するという態勢ができています。日本の開業助産師の諸君はなんともうらやましい限りではないか。ネパールの助産師の業務は、日本の助産師とあまり変わりはないが、バースコントロール（プロゲステロンの皮下インプラント埋め込み手術及び管理）と会陰切開および縫合術を行っているところが大きく異なる。バースコントロールに関しては、米国の指導のもと実施されており、報酬に関しても米国より支払われている。しかし、米国内では皮下インプラントは使用不可になっている。

分娩に関しても、伝統的な自然分娩の介助ではなく、点滴確保をして、分娩台の上でいきませ、会陰切開をするというスタイルだ。妊婦一人一人の自然の営みを大切にしてお産の介助をする日本の助産院のあり方に、ウルミラさんは、かなり感動していた。乳房マッサージに関しては、目をみはる驚きがあったようだ。ネパールでは、乳房マッサージのケアはほとんど行われていないようだった。ベビーや子どものマッサージは生活の中に充分定着している国なのに私はなんだか不思議な気がした。

ウルミラさんが暮らすジュディガオン村は、家の中に水道がなく、女たちは、1時間以上かけて水汲みに出かける。ガスは水牛の糞から作るが、5人分の料理を作るのが精一杯だ。洗濯や身体を洗うのは近くの川で行う。雨が降ると道がなくなり、歩けなくなるような山村地帯だ。村人のほとんどが農業で生計をたてている。妊婦もこの環境下で生活をしているのだが、お産は診療所を目指してやってくる。診療所で分娩した妊婦には、2週間分の食料を買えるだけのお金が政府から支給されるが、自宅分娩をするとなんの支給もない。それでも、陣痛が来てから、診療所を目指す間に、道で産気づいて産み落とす妊婦もいるという。診療所の近くには、ユニセフが看板を設置している。看板には、産まれたばかりのBABYの処置や褥婦のケアについてポイントが示されており、命の安全を守るせめてもの努力なのかも知れないと思った。ウルミラさんの話によると、ネパールの妊婦は分娩を恐れず誰でも普通に産めると思っているし、完全母乳で育てるとのことだった。もちろん、乳幼児虐待は、ありえない。妊娠の早期診断ができないため、自然流産も多量の性器出血でわかるので、流産後のケアの方法を学びたいと言っていた。妊産婦死亡率や新生児死亡率を聞いてはみたが、十分な統計がとられていないのかよくわからないという回答だった。しかし、ウルミラさんのきれいな瞳が涙であふれ、「お母さんと赤ちゃんをどうしても助けたくて助産師になりました」との言葉に私も胸が熱くなった。どこの国であっても、私たち助産師は同じ思いなのだ・・・。母児の命を守り、救うために私たちに何ができるのか・・・原点に立ち返り、助産師の仕事を見直すことができた2週間。実りある交流だった。これからもネパールの母と子の命を守り、助産師を必要とする女性に寄り添うウルミラさんを、心から応援したいと思った。



ネパールの助産師ウルミラ・ライさんとの国際交流

助産師教育カリキュラムの変更

福岡県助産師会広報委員 椎葉美千代

平成23年1月6日、厚生労働省と文部科学省より、保健師助産師看護師学校養成所指定規則の一部を改正する省令が公布された。改正の議論や内容については「看護教育の内容と方法に関する検討会」がまとめた第一次報告に示されている。その内容の一部を紹介する。

1. 助産師に求められる役割と機能

○産科医の不足、産科施設の集約化による分べん施設の減少などにより、助産師には産科医との役割分担を行いながら産科分野で活躍することが期待されている。○助産師が正常の妊婦健康診査と分べんを担うことで、妊産婦の多様なニーズに応えることが可能となる。そのためには、妊婦健康診査時の正常・異常の判別だけでなく、分べん時の緊急事態に対応できることが必要となる。○近年推進されている院内助産所や助産師外来では、医療機関内という特性からリスクの高い妊産婦にも対応していくこととなり、助産師はより高い助産診断能力とともに医師との連携が重要となってきている。○また、出産年齢の高齢化により、ハイリスク妊産婦が増加し、外来における妊婦健康診査から MFICU 等において産科知識と合わせた妊娠・産じょく期の生活支援に対する役割の期待も高くなっている。○他方、思春期からの STI(性感染症)予防や DV(家庭内暴力)・子ども虐待の予防と対応など、女性の性に関わる課題に対する助産師の活躍も期待されている。

2. 保健師助産師看護師学校養成所指定規則の一部改正

○教育カリキュラムは23単位から28単位になり、増加した教育内容は助産診断・技術学2単位、助産管理1単位、臨地実習2単位である。時間数は765時間以上から930時間以上になった。

教育の基本的考え方		
1 妊産じょく婦及び胎児・新生児の健康水準を診断し、妊婦・出産・産じょくが自然で安全に経過し、育児を主体的に行えるよう、 <u>根拠に基づき支援する能力を養う。</u> 2 女性の一生における性と生殖をめぐる健康に関する課題に対して、 <u>継続的に支援する能力を養う。</u> 3 安心して子どもを産み育てるために、他職種と連携・協働しながら、個人及び社会にとって必要な地域の社会資源の活用や調整を行う能力を養う。 4 <u>助産師の役割・責務を自覚し、女性と子ども並びに家族の尊厳と権利を尊重する倫理観及び専門職として自律する能力を養う。</u>		
教育内容	単位数	留意点
基礎看護学	6	女性の生涯を通じて、性と生殖に焦点を当てて支援する活動である助産の基礎について学ぶ内容とする。 <u>母子の命を同時に尊重することに責任を持つ役割を理解し、生命倫理を深く学ぶ内容とする。</u> 母性・父性を育むことを支援する能力を養う内容とし、また家族の心理・社会学的側面を強化した内容とする。チーム医療や関係機関との調整・連携について学ぶ内容とする。 <u>助産師の専門性、助産師に求められる姿勢、態度について学ぶ内容とする。</u>
助産診断・技術学	8	<u>妊娠経過の正常・異常を診断するための能力を養い、診断に伴う最新の技術を修得する内容とする。</u> 助産過程の展開に必要な助産技術を確実に修得するために演習の充実強化を図り、助産の実践に必要な基本的技術を <u>確実に修得する内容とする。</u> 妊婦・じょく婦・新生児の健康状態に関するアセスメント及びそれに基づく支援を強化する内容とする。 <u>分べん期における緊急事態(会陰の切開及び裂傷に伴う縫合、新生児蘇生、止血処置、児の異常に対する産婦、家族への支援等)に対応する能力を強化する内容とする。</u> <u>妊産婦の主体性を尊重した出産を支援する能力を養う内容とする。</u>
地域母子保健	1	住民の多様なニーズに対応した母子保健サービスを提供できるための能力を養うとともに、 <u>保健・医療・福祉関係者と連携・協働しながら地域の母子保健を推進するための能力を養う内容とする。</u>
助産管理	2	助産業務の管理、助産所の運営の基本 <u>並びに周産期医療システムについて</u> 学ぶ内容とする。周産期における医療安全の確保と医療事故への対応について学ぶ内容とする。
臨地実習 助産学実習	11	助産診断・技術学、地域母子保健及び助産管理の実習を含むものとする。分べんの取り扱いの実習については、分べんの自然な経過を理解するため、助産師又は医師の監督の下に、学生1人につき正常産を10回程度直接取り扱うことを目安とする。取り扱う分べんは、原則として分べん第1期から第3期終了より2時間までとする。実習期間中に妊娠中期から産後1ヶ月まで継続して受け持つ実習を1例以上行う。妊婦健康診査を通して妊娠経過の診断を行うとともに、産じょく期の授乳支援、新生児期のアセスメントを行う能力を強化する実習を含む内容とする。

下線：改正箇所，平成24年度の入学者から適用

3 BELLE MAISON

人気のベルメゾン「ママ&ベビー」など、
出産・育児応援カタログを空いたスペースに
置かせていただけませんか？



ママ&ベビー（マタニティ）



出産祝いをもったら見るカタログ

◎千趣会ベルメゾンでは、全国の産科産婦人科院・助産院様へオリジナルマタニティー衣料や、お悩み解消グッズ、産後のお祝い返しに便利なギフト贈答品などを載せた、魅力溢れるお勧めカタログ・上記の2種を無料で差し上げています。「専用500円割引お申込ハガキ」をセットした特別カタログもご用意していますので、来院のマタニティーさんに、きっと喜んでいただけます！

●カタログ設置に関するお申し込み・お問い合わせは…
千趣会サービス・販売株式会社 福岡オフィス（担当：藤丸）
フリーダイヤル 電話：0120-81-0860
フリーダイヤル FAX：0120-81-0088（平日：9時～17時）

地球の未来と子どもたちの為に

界面活性剤・蛍光漂白剤などの化学物質は一切使用していません。
安全でありながら抜群の洗浄効果があります。
洗剤・石鹸から受ける経皮毒がありません。



★ミラクルクリーナー-ZK

万能用途
クリーナー水 500ml 200ml分
1kg 7140円(税込)



★ミラクルクリーナー-ZK

万能用途
クリーナー水 500ml 40本分
200g 2079円(税込)



★ミス・クリーン

血算専用クリーナー
濃縮タイプ電線水
500ml 1260円(税込)

ミラクルクリーナー-ZKの作り方



① 500mlのスプレー容器に
ミラクルクリーナー-ZKを
スプーン一杯(5g)入れます



② 水道水を入れます。



③ よく振ったらクリーナー水
500mlの出来上がり。

詳しくはホームページをご覧ください

アルコ 検索

http://www.arco8.net

株式会社アルコ

福岡市中央区大手門3-1-1
大手門高木ビル2F

(092)724-5500



Baby
madonna

乳頭キレツのケアに

赤ちゃんのおむつかぶれに



乳頭キレツならベビーパーユマドンナ

スキンケア指導で
人気です！

- お産セットに
- 産科での指導に
- 産院・母乳育児相談室で
- 母子訪問指導時に

- 全成分表示：
馬油・ミツロウ・パルマローザ・
トコフェロール（天然ビタミンE）
- 無着色・無香料
- 無香料タイプですが、植物の
パルマローザの香りがほんのりします。



天然成分100%

希望小売価格

4g / 238円(税込 250円)

25g / 1,100円(税込 1,155円)

お徳用83g / 3,200円(税込 3,360円)

ベビーパーユマドンナ
産院・助産師仕入価格 4g/200円(税込)

助産師さんと歩んで33年

発売元 YOUTH ユース産業株式会社 ☎0120-28-2267

ママと赤ちゃんのコンビニエンス

産科用品の自動販売機

院内サービスショップとして
24時間いつでも利用していただけます。

陳列コラムを
回転させながら
商品が
選べます

投入金額以内の
陳列コラムの扉を
1つだけ開けて商品
を取り出せます

GLORY
XENITH AE-20V

- 1台で90品目販売、豊富な品揃えができます。
- 販売価格は5,000円まで、もちろん、千円紙幣も使えます。
- 売上集計もワンタッチで、ジャーナル印字も行えます。



本体寸法：(W×D×H)
402×645×1830mm・重量150kg



企画・発売元

SEBE セベ産科用品株式会社

〒816-0084 福岡市博多区福岡3丁目25-23 TEL:(092)591-0316(代)

1. 平成 23 年度 福岡県助産師会総会開催のお知らせ

平成 23 年度福岡県助産師会講演会および総会を下記の通り開催いたします。詳細は追ってご連絡いたします。

日時：平成 23 年 5 月 14 日(土) 14 時 00 分～

場所：アクロス福岡

2. 会費自動引き落としのお知らせ

年会費の引き落としが近くなりましたので、指定口座の残額のご確認をお願いいたします。

年会費：15,000 円（日本助産師会本部 10,000 円・福岡県 5,000 円）

<問合せ先> 会計担当：濱崎 ヨシ子 E-mail：nioisumire425@kib.biglobe.ne.jp

TEL : 0942-34-6168

3. 絵本のご紹介

助産師として、子育て中のママに接することも多い中、絵本の情報を知っておくことも大切なのではないでしょうか？ 広報委員では、助産師に読んでほしい絵本を紹介していきます。



おっぱい 作・絵 みやにしたつや

「そうさんのおっぱいたくさんのんでおおきくなあれ」と動物の親子のおっぱいの話にはじまり、「おっぱい」という言葉が何度も繰り返されていきます。さいごには、「ぼくのだいすきなおっぱいをおとうとにすこしかしてあげる」という優しさが込められた絵本です。

卒乳のときに使ってみてはいかがでしょうか。

《編集後記》

平成 23 年は「辛(かのと)卯(う)年」です。十干の「辛」は新しいという意味を持ちます。十二支の「卯」は時刻であれば午前六時頃で「夜明け」にあたります。また、「扉の象形文字」とも言われています。扉を開き、暗いところから明るい場所に舞台が移る年です。助産師が種子を蒔き、四方八方に力を注ぎ努力してきたことが、新しく扉を開いて明るい光を浴びる年となりますことを期待しています。

今年は、皆様にとって「笑門来福」のすばらしい年になりますよう心よりお祈り申し上げます。

広報委員 嶋井・澁谷・好村・坂本・新小田・椎葉

(社) 福岡県助産師会ニュースレター 第45号 2011年 1月

発行人 社団法人福岡県助産師会 会長 平田伸子

〒810-0014 福岡県福岡市中央区平尾 1-3-41

電話・FAX 092-521-2025 <http://www.fukuokajyosanshi.co>

